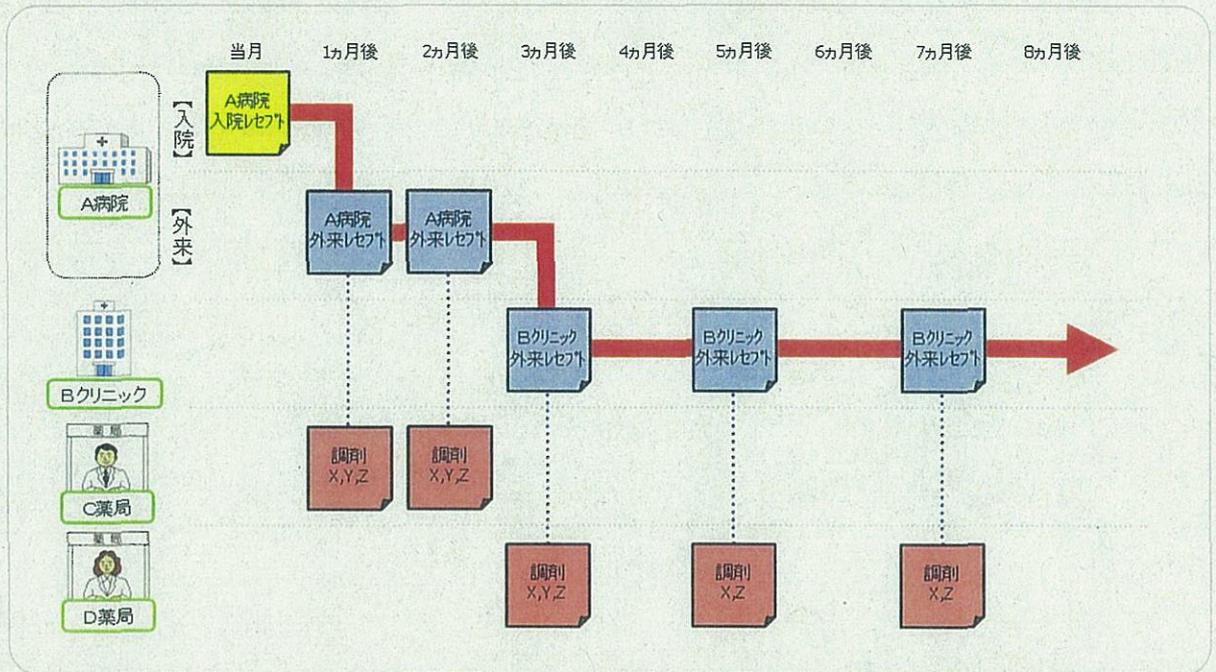


退院後の治療推移

- ◆ JMDC では Medic4 という名寄せ技術により同一患者を認識し、同一患者には同一 ID を割り振っています。よって、患者が医療機関を移動しても、患者 ID によりデータを連結させることが可能です。下記の図では、例として心筋梗塞を発症して入院した患者の医療機関推移を、レセプトの発行単位ごとに模式化しています。

図. 心筋梗塞発症患者の医療機関の推移

心筋梗塞を発症して入院した月を当月とし、その後の経過を月ごとに医療機関単位で追跡しています。



- ◆ レセプトは医療機関ごとの発行なので、患者が医療機関を変えればその移動がわかります。また同一医療機関でも入院と外来のレセプトは別々に発行されるので、同一医療機関内での入退院も把握可能です。外来にかかり、処方が院外に出た場合は、調剤薬局から調剤レセプトが発行されます。ここには処方元の医師、医療機関の情報が記載されているため、どの医療機関で処方されたかが識別可能です。よって医療機関の移動による処方の変化も確認できます。また、患者が医療機関を変えた場合、紹介があったか否かの状況も、診療情報提供料の算定の有無をみることによって判別可能となります。
- ◆ 今後、特にがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病については 4 疾病 5 事業において地域ごとの医療計画の策定が求められており、ますます地域連携体制の構築が進みます。
 処方の上流はどこにあるのか、その波及効果はどの程度あるのか、今一度把握しておく必要はないでしょうか。
 このような情報が HP への注力配分、ターゲット施設を選定する一つの材料となります。